一学年だより

Ｎｏ，９

令 和 ８年　８月　２５日
太宰府市立太宰府西中学校
文　責　：　江崎　彰泰

たくましく、しなやかにまっすぐ成長する

～ 毎日小さなことを積み上げると　いつの間にか成長している ～

夏休みが終わり、今日から学校生活が再開となりました。時間を大切に使い、充実した夏休みを過ごすことができましたか。また、休みの間に自分を振り返って「成長したこと」と「改善すべきこと(課題)」を見つけたでしょうか？

自信は、失敗して反省して、自分を変えてきた積み重ねではないでしょうか。
成長とは変わることで、今までと同じでは成長とはいいません。
変わらない限り、同じ過ちを繰り返し、ますます自信をなくすのです。

前回紹介したメッセージです。今日からは、今までの失敗を反省して自分を変えていくことが大切です。忘れ物が多かった人は、毎日前の日に準備をする。宿題忘れが多かった人は、家に帰ったらまず宿題を仕上げる。人を傷つけてしまった人は、行動する前に必ず相手の気持ちを想像する。中間考査で失敗した人は、テスト勉強の計画を見直し、勉強内容、勉強法を工夫する。勉強時間を増やす。など、今までと「行動」を変えるのです。一方で、今まで頑張ってきたことやしっかり取り組んでいることは、そのまま変えることなく継続していきましょう。

自分を何よりも成長させてくれるものは、日常生活の一つ一つの小さな活動です。「あいさつ」「掃除」「授業」「委員や係の仕事」「朝学習・夕学習」「部活動の練習」「生活ノート」など、毎日の当たり前の活動です。目の前の小さなことにていねいに、一生懸命に取り組むこと。自分ができることから、一歩一歩進めていくこと。そして、いつも「ありがとう」という「感謝の心」と「はい」という「素直な心」を大切にすること。人の役に立つ小さな行動を心がけること。これが、困難や苦労に耐える力を育て、目標に向かって自分自身を成長させるコツです。日常生活の小さな活動の中で自分自身を成長させていきましょう。

そしてもう一つ、まわりの人と労(いたわ)り合いながら接するような「優しい心」「思いやりの心」を成長させましょう。**人は自分がされた事に対しては敏感ですが、自分が相手にしていることに対しては鈍感だったりするものです。**悪気はなくても、そんなつもりはなくても、知らない間に人を傷つけているかもしれません。そこで、今まで以上に「言葉」を大切に使いましょう。

言葉は、人への贈り物になります。言葉は、人の心に安らぎや励ましを与えます。あなた自身の中から出てくる、優しい言葉を贈りましょう。朝、元気を出して、「おはよう」ってあいさつをする。してもらったことに気づいて「ありがとう」と感謝する。ただ、それだけが誰かの心に響くことがあります。困っている人に「よかったら手伝いましょうか」と声をかける。ただそれだけが誰かの心を温かくすることがあります。

「優しい言葉」「ていねいな言葉」「感謝の言葉」「励ましの言葉」「ねぎらいの言葉」を使って生活していきましょう。

「言葉は心」
（作者不明）
一つの言葉でけんかして
一つの言葉で仲直り
一つの言葉で頭がさがり
一つの言葉で笑いあい
一つの言葉で泣かされる

学校は、助け合い、励まし合い、支え合いながら力を合わせる場所です。

自分の発した言葉が自分の未来をつくる

村上信夫（元 NHK エグゼクティブアナウンサー）

私たちの体は食べ物がつくっています。では、耳から入って来た言葉は何をつくっていると思いますか？

聞いた言葉は心をつくっているのかなと僕は思っています。「ダメ」とか「どうせ」という言葉を自分に対しても、子どもに対しても使っていると、そういう心になっちゃうんです。

だから自分にとっても相手にとっても聞いて喜ぶ言葉、嬉しい言葉を使っていこうということです。

問題はその次です。食べ物が体をつくり、聞いた言葉が心をつくるとしたら、自分が発した言葉は何をつくるのか。ここが一番大事です。

自分が口にした言葉は自分の未来をつくる、僕はそう思っています。

みんなそう思って言葉を使っていないでしょ？これからはそう思って使ってほしいんです。さっき言った「でも」「だって」「どうせ」という口癖を持っている人には「でも」「だって」「どうせ」な未来が待っているわけです。

そもそも人生というのは嬉しいことばかりじゃありません。理不尽なことがあったり嫌なことがあったりします。その度にその現実に心を奪われて、「なんで私ばっかりこんなことが起きるんだろう、嫌だな」と思っていると、もっと嫌なことが起きます。そういう時だからこそ、「**これを乗り越えた先に楽しいこと、嬉しいことが待っている**」と自分に言い聞かせればいいのです。

生徒会選挙に向けて



9/11(金)に新生徒会役員を決める立会演説会と投票が行われます。副会長（1名）と庶務（1名）の役職に、1年生から8名の人が立候補しています。

立候補を決意したみなさん、自分のやる気や思いを、全校生徒にしっかりアピールしていきましょう。選挙のお世話してくれる選挙管理委員のみなさんを紹介します。

1組	2組	3組	4組	5組

今後の予定





8/26(水)　人権教育実践交流会　13:20 下校　部活動中止
8/28(金)　探究タイム発表会(5･6校時)
8/30(日)　職業フェス　10:00～12:00　本校体育館
9/3(木),4(金)　前期期末考査
9/9(水)　未來へ贈るコンサート(九州交響楽団)
9/11(金)　立会演説会･投票
9/16(水),17(木)　自然教室　※15(火),18(金)1年生部活動中止

保護者のみなさまへ

教育相談では、暑い中、また、お忙しい中に時間をつくっていただきありがとうございました。短い時間ではありましたが、貴重なお話やご意見をいただきました。

今後も担任を中心に、学年職員全体で教育活動を行って参りますので、ご協力よろしくお願いします。ご不明な点やご心配なことがありましたら、担任におたずねください。

平和を考える



７/１７(金) の道徳では、２９歳のときに広島と長崎で二度の被ばくを体験した山口 彊(つとむ) さんの生き方を通して、平和を守るために自分たちにできることを考えました。

被爆体験について６０年間なにも語ってこなかった山口さんは、息子の死をきっかけに、９０歳で「反核」「世界平和」を訴えるために国連本部（ニューヨーク）に行き、自身の二重被爆体験を語りました。

その後も、９３歳で亡くなるまで、地元長崎で「反核」の活動を続けました。

非核平和
永久(とわ)に護(まも)らす　神あらば
青き地球は　亡びざるべし

「『平和』を守るために私たちにできること」について、みなさんの意見を紹介します。

●話し合いで解決すること。
●何かおかしいと思ったら、しっかりと意見できるようになること。
●お互いの意見を尊重する。けんかや口論になった時に相手の立場になって考えてみる。
●自分が原爆について知ること。知ったことを周りの人に伝えていくこと。
●他の国のことについて知り、その国のよいところや日本のよさを伝えて仲良くなる。
●原爆や戦争について今よりもっと知り、その恐ろしさをみんない伝えていき、けんかや暴力をしないで、平和についてより深く考える。
●周りの人たちを大切にする。（悪口を言わない、暴力をふるわない、けんかをしない）被爆者を差別しない。個性を認め合う。思いやりを待った行動。みんなで助け合う。
●何気ない日常に感謝し、１日を大切にする。
●些細な事でもすぐに「ごめんね」「ありがとう」を言うことや、ケンカになることをまねかないようにすること。
●山口さんのように戦争を経験していないから、体験を話したりできないけど、いじめをなくしたり、差別をやめたり、悪口を言わないなど、今の学校生活を見直して、一言一言を大切にしたい。

平和宣言

（一部抜粋）



　このままでは世界中で不信の連鎖が進み、欲望がむき出しになっていた第二次世界大戦の時代に回帰してしまいます。核兵器の非人道性を軽視し、自国の繁栄のための武力行使を認めることは、暴力を伴う報復の連鎖を許容し、第三のヒロシマ・ナガサキを作り出すことになりかねません。

　皆さん、ここで再度、あの惨禍を生き抜いた被爆者の体験に耳を傾けてください。当時 16 歳だった女性は優しかった姉のことを振り返ります。まるで骸骨のように皮膚が崩れてなくなり、唇のない口から歯がむき出しになっていた姉の顔は、悪夢のようで信じられなかった。また、3歳で被爆した後に次々と病に襲われ、55 歳で白血病を発症し原爆症と診断された女性は、いつも次にどんな病気がくるのかという恐怖と隣り合わせの日々だったといいます。
また、別の当時 9 歳だった男性は、多くの一般人が犠牲になっているロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにし、争いが起きない世界を創るため、自分の中の争いの心を乗り越え、相手の考えを受け入れる気持ちを持ってほしい、とりわけ若い世代には、そのために身近なことから考えてほしいと訴えます。

　市民社会は、こうした被爆者の声や被爆者の思いを伝承する活動に鼓舞され、核兵器廃絶と平和を願う行動の輪を、国境を越え世代を超えて広げてきました。しかし、多くの為政者は現実的な対応として核抑止力に依存し続け、暴力を肯定する国際社会が出現し、核兵器のない世界は遠のくばかりです。戦争の記憶が薄れることで核兵器の使用が容認されかねない時代を生きる私たちは、今改めて、国連を創設し核兵器廃絶を決意した過去の教訓を学び直す必要があります。そして、一人一人があらゆる暴力を否定し、核兵器廃絶という理想を理想で終わらせない国際社会を創り上げるための行動を起こす必要があります。

　そこで、若い世代の皆さんに提案があります。価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください。 そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することができます。既に世界の多くの若者が、広島を始め 様々な場で被爆の実相を学び、交流を深めています。皆さんも平和のために日常生活の中でできることを実践し、自らの思いを発信することで、その行動の輪を広げていってください。こうした取組は、お互いを認め合う平和文化を世界中に根付かせ、核兵器廃絶を国際社会の常識にすることにより、為政者が核抑止力に依存することを認めない環境づくりにつながります。広島市は、平和首長会議の 8,589 の加盟都市と連帯し、平和文化を世界中に広め、次の世代に伝える活動を後押しするとともに、「ヒロシマの心」を世界に訴え続けます。

令和8年（2026年）8月6日

広島市長　松井　一實